

【第43回「少年の主張」奈良県大会】

第43回「少年の主張」奈良県大会が、9月5日（日）に吉野郡川上村「川上総合センター」で開催されました。この大会は県内の中学生による主張発表会で、日ごろ感じ・思い・考えていること、夢や希望、同年代や大人へのメッセージなど、それぞれの「主張」を発表します。

今年度は3,341作品の応募があり、事前の原稿審査で10名の中学生が今大会に参加しましたが、その中のなんと3名が本校の生徒から選ばれました。これは凄いことで、大変喜ばしいことです。

選ばれた3作品を紹介します。皆さんは、この作品を読んでどのようなことを感じるでしょうか。



追い越すことのできない存在

お父さん、いつもありがとう。この一言が毎日のふとしたときに、僕の口からすんなりと出てくればよいのに、お父さんが夜遅くまで家事をしているときや家族のご飯をつくっているときに時々思います。

でも、そんなことが僕には簡単にできっこないので、この少年の主張という機会を生かして、普段僕がお父さんに対して思っていることを言いたいと思います。

お父さんへ、毎日お疲れ様です。お父さんは毎朝、みんなの朝ご飯を用意し、弟や妹たちの朝の準備をたった一人で、毎日淡々とこなします。

そして、みんなが朝家を出てやっと落ち着いたと思えば、休む間もなくお父さんは仕事に向かいます。

そして夕方、仕事からお父さんは疲れて帰って来ると、すぐに弟、妹たちを幼稚園、学校に迎えに行きます。お父さんはヘトヘトになって帰って来ているのに、みんなのご飯をつくってくれます。お父さんのつくるご飯はとても美味しいです。僕はお父さんのつくる「明太子パスタ」が大好きです。

そして、弟たちが寝て、家が静かになったころ、お父さんは、家族六人分の洗濯を始めます。家族六人分となると相当な量になります。

このようなことを毎日こなすお父さんを見ている僕には、痩せてほっそりしているはずの背中がとても大きく、格好良く見えます。

お父さんへ、たまにはゆっくりと休んでください。お父さんはいつも家事をこなし、仕事に行き、とても疲れがたまっていると思います。

だから、たまには子どもの僕たちのように、お父さんが好きなこと、ゴルフ、漫画、いろいろあると思います。そのお父さんの好きなことを好きだけしてください。

そして、思いきり楽しんで、とびっきりの笑顔を僕たちに見せてください。僕たちが笑顔で毎日過ごしているのはお父

さんのおかげです。たまには、その笑顔を僕からも送りたいです。お父さんの幸せは家族みんなの幸せです。

お父さんへ、いつもどおりの毎日を送らせてくれてありがとう。いつもと変わらない何気ない朝を迎えられて、いつもどおりの日々を送ることができているのは、お父さんのおかげです。お父さんが僕たち家族、みんなのことを一番に想ってくれて、大切にしてくれていることを僕は、とても幸せに感じています。

お父さんの子どもとして生きていく今がとても幸せです。お父さんへ、これからも僕のそばにいてください。お父さんや家族のみんなといるときに僕が一番、僕自身そのものを出せるときです。お父さんたちといると、嘘偽りのない自分が僕の心の中から出てきてくれます。これが安心感であり、ここが僕にとって心を休め、解放される場所だということに最近気付きました。

この安心感というものが、今までに知らず知らずのうちに、僕のことを守ってきてたんだと思います。

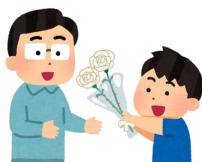
これからもお父さんがもつその安心感で、僕を助けてほしいです。

これからも僕は大きくなります。そして、いつか大人になったとき、お父さんが僕に対して注いでくれた溢れんばかりの愛情を、僕も誰かに与えられるようになりたいです。

僕にとってお父さんは、一生をかけても追い越すことのできない存在です。

その僕の永遠の目標であるお父さんと肩を並べる、お父さんのような格好良い人になれたとき、お父さんに親孝行をできたなら良いと思います。待っていてください。

最後にお父さん、いつもありがとう。



## 一本の色鉛筆

突然ですが、手を見て下さい。何色をしていますか？  
心の中で呟いてみて下さい。

色々な答えがあると思いますが、「肌色」と自信を持って呟いたあなたは、残念ながら不正解です。何故かという、答えはありません。きっと、あなたは自身の手を見たのだと思いますが、当然のことながら、答えは人によって違うからです。これは、今の僕がそう思っているだけで、過去の自分は皆さんと同じ答えでした。

ある日のこと、色鉛筆の蓋を開くと十二色の色鉛筆が並んでいました。それは、色彩鮮やかなくとも見慣れている色でした。

しかし、突然疑問が湧いたのです。「なぜ、『うすだいたい』なのだろう」幼稚園の頃から「肌色」と呼ばれてきた色が中学生になって『薄橙』という名が付いていたのです。

直ぐさま調べてみると、「差別」の文字。正直、色と差別は無縁だと思っていました。よく読んでいくと、その答えは、最近よくニュースで目にする「人種差別」にありました。

つい最近、テレビを見てみると「アメリカで黒人男性が警官により誤射殺された」という報道がありました。これについては、昨年にも全米で人種差別への抗議デモが広がるきっかけとなった、白人警官が黒人男性を暴行死させた事件も起きており、有色人種は白人に比べ劣っているとする「白人至上主義」の考え方が問題視されています。さらに、人種差別に抗議する

「BLM運動」のデモが全米のみならず世界各地に広がっています。そして、BLMを和訳では「黒人の命は大切だ」と表されます。つまり、このことが肌色から薄橙に名称が変更された大きな理由なのです。

しかし、このままでは世界はどうなってしまうのでしょうか。ここで、深く関係しているのが『ステレオタイプ』です。例を挙げると、科学的な根拠では無く、「血液型によって性格を決め付けてしまう」などという、特定の人種や地域、性別に浸透しているイメージや固定観念のことを指します。そして、これは偏見や差別とよく混同されますが、それぞれに違いがあります。先程の黒人差別に当てはめると、『黒人は野蠻』というイメージはステレオタイプ、『近づくのが怖い』という感情は偏見、それが行動に移り、差別となります。

つまり差別は、人が生み出した勝手なイメージ（ステレオタイプ）により差別へと発展し、全ての始まりは、固定観念にあるのです。

では、「偏見や差別を表に出さず、ステレオタイプを自分の中だけで持つことは良いのか」と感じた人もいます。決まらずにそうではありません。スタンフォード大学で行われた実験では、白人学生よりも成績が低かった黒人学生に対して「黒人は知能レベルが低い」というステレオタイプを取り払った状態で試験を行うと、白人学生と同等の成績を修めました。つまり、ステレオタイプによる影響で知能が低下してしまっただけのことです。これを『ステレオタイプ脅威』と言います。

大切なことは、このステレオタイプが必ずしも当て

はまるという訳では無く、目の前の人を決め付けてしまえば、その人自身の本質を見誤る可能性があるということです。ステレオタイプ脅威のようなことがこのまま続いていくと、世界はどこへ向かっていくのでしょうか。人種以外にも民族や文化、障がい者、LGB TQなどの性的少数者への差別……。小さな固定観念から生み出された悲惨な差別は、もう過去です。取り返せない過去から学ぶ、未来を変えるためにすべきことです。同じ人間同士、多様性を認め合い助け合える。そんな世の中にしていかなければなりません！この地球上に存在する全人類の肌が『肌色』ではありません。次はあなたが考える番です。

では、最初にあった質問に、あなたはどのように答えますか？…



## 「十人十色」が、輝く世界へ

「○○(作者の名前)ってさ、何か変わってるよな。男の子っぽいって言うか…。」

これは、私が小学四年生のときに、クラスの男の子から言われた言葉です。

小学生のころの私は、男の子と遊んだ方が楽しいと思っていました。女の子と話すよりも、男の子と話していた方が馬が合いました。ビーズを並べるよりも、ボールを蹴っていた方が楽しかったです。

そんな中、いつもと同じように学校で男の子と喋っているとき、不意に言われたのが、この言葉でした。「ズキッ」。

「変わっている。」この言葉は、私の胸に冷たく突った何かを刺しました。

その言葉をクラスの人も沢山聞いていたからか、それから私は、クラスの友達である女の子から、いじめを受けるようになりました。無視をされたり、訳もなく怒鳴られる、毎日がその繰り返しでした。

それから私は、男の子と話すことをやめ、女の子と話そうにしました。いじめられないように、何とか女の子と関係をもてるように、はみ出さないように、必死でがんばりました。

そうやって、自分自身を偽っていくうちに、自分自身が色褪せていくのを感じました。憂鬱で息苦しい日々が続く、毎日が白黒で、まるで自分の世界から色が消えてしまった、そんな気さえたのです。

しかし、そんな白黒な毎日から、私を救い出してくれた人物がいます。それは、私の母でした。ある日、

私は母に、「いじめられるのがいやだから、学校を休みたい。」と訴えました。そのとき母が、「別に、周りの目を気にして自分を変えなくてもいいと思うよ。○○(作者の名前)は、○○(作者の名前)なんやからさ。」その瞬間、私の胸に突き刺さっていた、あの冷たくて突った何かが、解けていきました。気がつくとは私は、母に抱きつき、「ポロポロ」と涙を流していました。

「そうだ、周りの目なんて気にしなくていいんだ。自分のしたいことをすればいいんだ。自分らしく、生きていいんだ！」私はやっと、そう思えるようになったんです。

次の日から私は、自分のしたいことをするようになりました。そうすると、自然と自分らしい口調、自分らしい仕草になっていきました。時間が経つにつれて、そんな私をクラスのみんも受け入れてくれるようになります。いじめも消えていきました。

今では、男の子、女の子両方と遊んでいます。絵を描くことが好きになり、そのことを通じて、今では友達も沢山います。親友と呼べる存在にも出会えました。

近年、「LGBTQ」、セクシャルマイノリティの人たちが注目されています。異性が好きな人、同性が好きな人、両性を好きになる人、生まれてきた性と生きる性が違う人など、この世界には人それぞれの、沢山の個性があります。

その個性を、もっと自由に広げられるように、日本でも沢山の取組が行われています。

けれども、知識がないゆえに、「レズビアン」を「レズ」と呼んだり、「ゲイ」を「ホモ」などと、差別的な用語で呼んでしまう人もいます。それに、周りとは

し違うからといって、学校や会社など色々な場所で差別を受けてしまうことも少なくありません。

女の子だからおしとやかにしなければいけない、男の子だから人形遊びはおかしい、そんな偏見を持つのではなく、その人の個性として理解していく。このことが、人と接していくうえで、そして、これからの世界を担っていくうえで、大切なことだと思うのです。

だから私は、全ての人が自分の個性を胸を張って見せられる、そんな世界を創っていききたいです。

「十人十色」、世界中の人たちが、この言葉を素敵と思えるような世界にしましょう。



## 「十人十色」が、輝く世界へ

この作品が第43回「少年の主張」奈良県大会で『最優秀賞』(優勝)を獲得しました!!



おめでとうございます!



今後は、10月中旬に開催される

「少年の主張 近畿・中部ブロック大会」に奈良県代表として出場します。

近畿・中部ブロック大会には、各県の代表者11名が参加し、その中から推薦を受けた3名が全国大会出場します。

※お配りしています「学校だより」は、モノクロ版になります。  
カラー版は、香芝東中学校のホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。